授業科目名 （英文表記）	旅人の哲学　～日本人にとって「旅」とは何であったか～ （An Introduction to Japanese Philosophy：Journey）		
単位数	2（学部生のみ）	授業形態	講義
担当教員	非常勤講師　天野　雅郎		
開講	南紀熊野サテライト	区分	学部開放科目
実施日・時間	① 10月22日(土)　13：00～17：00	④ 12月10日(土)　13：00～17：00	
	② 11月12日(土)　13：00～17：00	⑤ 12月24日(土)　13：00～17：00	
	③ 11月26日(土)　13：00～17：00	⑥ 1月14日(土)　13：00～17：00	

【授業の概要・ねらい】

哲学は難しい、という印象を多くの人が持っています。

たしかに、哲学は難しく、ひょっとすると全ての学問の中で、もっとも難しい学問であるのかも知れません。が、それと同時に哲学は、いたって易しい、あらゆる人に開かれた学問(と言うよりも、学問以前の学問)であることも事実です。

この授業では、そのような哲学の難しさと易しさを、あたかも茶の湯(＝茶道)と日常茶飯の両面から、お茶を飲み、ご飯を食べるかのように、皆さんに伝えることが叶えば幸いです。

今回のテーマには、旅人を選んでみました。

なぜなら、そもそも人は誰しも、誰一人の例外もなく、生まれながらにして旅人であり、その人が実際に、どこかに旅行をしたり、観光をしたりしていなくても、すでに一人の旅人として、いつも旅の途上を生き、生きていかざるをえないからです。――生から死へと、さまざまな生との出会いや、死との出会いを繰り返しながら、人は誰しもが例外なく、その名の通りの旅人(Homo Viator)としての生涯を送っています。

日本人は古来、そのようにして「旅」(たび)という語を捉え、そこから多くの、はなはだ優れた文学作品を産み出してきました。

この授業では、そのような日本を代表する「旅」の文学の歴史を振り返りながら、そもそも日本人にとって「旅」とは何であったのかを、もう一度、日本人の宗教性や芸術性の原点として辿り直し、そこには現在の私たちの見失い、忘れてしまっている、奥深い「旅人の哲学」が脈打っていることを、皆さんと共に確認するのが狙いです。

【授業計画】

第1回：神話の中の旅人 ～『古事記』を中心に～
第2回：物語の中の旅人 ～『伊勢物語』を中心に～
第3回：日記の中の旅人 ～『更級日記』を中心に～
第4回：和歌の中の旅人 ～『山家集』(西行家集)を中心に～
第5回：俳諧の中の旅人 ～『奥の細道』を中心に～
第6回：演劇の中の旅人 ～『東海道四谷怪談』を中心に～

【到達目標】

日本人が古来、旅と人生との繋がりについて、いかに深い思いを馳せてきたのか、その哲学の一端に触れるのが目標です。

【教科書】

教科書として、個別に使用するテキストはありません。

【参考書】

膨大な量に及びますので、授業中に適宜、紹介します。

【授業時間外学修についての指示】

毎回、中心テーマとなる日本の古典(classic＝最上級)について、事前に読んだり、事後に読んだりすることが必要になります。

【履修上の注意・メッセージ】

多くの皆さんの、ご参加を期待します。